



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月8日

上場会社名 株式会社YU-WA Creation Holdings 上場取引所 東
 コード番号 7615 URL <https://www.yuwa-holdings.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 服部 雅親
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理本部長 (氏名) 浅香 竜也 (TEL) 03-3639-9191
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	6,569	6.2	13	—	22	—	7	—
2022年3月期第3四半期	6,186	10.0	△29	—	△12	—	△47	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 7百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 △47百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	0.64	—
2022年3月期第3四半期	△4.05	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	11,673	4,587	39.3	409.18
2022年3月期	11,857	4,788	40.4	404.37

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,587百万円 2022年3月期 4,788百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	3.00	—	3.00	6.00
2023年3月期	—	3.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,723	14.6	156	—	139	731.9	102	—	8.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	12,498,200株	2022年3月期	15,498,200株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,286,839株	2022年3月期	3,657,589株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	11,343,266株	2022年3月期3Q	11,818,093株

(注) 期末自己株式数には、「株式給付型E S O P」が保有する当社株式(2023年3月期3Q 351,300株、2022年3月期 351,300株)が含まれております。また、「株式給付型E S O P」が保有する当社株式(2023年3月期3Q 351,300株、2022年3月期3Q 351,300株)を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(セグメント情報)	P. 8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和が進み、経済活動に持ち直しの動きがみられたものの、原材料やエネルギー価格の高騰に起因する物価上昇、急速な円安の進行などにより、先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

このような環境の中、当社グループでは、引き続き感染拡大の抑制に必要な対策、対応を実施しながら営業活動を行ってまいりました。当社グループにおける各事業部門別の状況は次のとおりであります。

〔和装店舗運営事業〕

和装店舗運営事業の受注高は前年同期比 0.4%増の 6,609 百万円となりました。また、売上高（出荷高）については、5.0%増の 6,319 百万円となりました。既存顧客を対象とした「一般呉服」等の受注高については、前年秋に実施した大規模なツアー型催事に伴う反動減があったものの、引き続き感染拡大防止に努めながら積極的に催事を行った結果、当第3四半期連結累計期間では高額商品を中心に販売が好調に推移し、前年同期比 15.0%増となりました。

「振袖」販売及びレンタルについては、お客様のレンタル志向やママ振袖（母親が成人式で使用した振袖）に帯や小物を現代風にアレンジして着用するスタイルがより一層強まっていることに伴う販売単価の低下や、物価上昇に伴う消費マインドの低下による来店客数の減少が見受けられ、受注高は前年同期比 35.0%減となりました。

利益面においては、売上総利益率は前年同期と比べ 0.7 ポイント改善し 63.7%となりました。販売費及び一般管理費については、中期計画策定のもと前期に引き続き構造改革を進めており、損益分岐点売上高を引き下げる活動を推進している一方、「一般呉服」等の受注が好調に推移したことに伴う費用増加や従業員の賃金引上げや賞与の増加に伴い人件費が前年同期比で 5.5%増加し、販売費及び一般管理費の対売上高比は 0.4 ポイント上昇いたしました。この結果、和装店舗運営事業の営業利益は前年同期比 10.5%増の 478 百万円となりました。

〔その他事業〕

その他事業については、引き続き写真スタジオ事業、EC事業を中心に売上高拡大に取り組んでおります。12月には自社オンラインストアのリニューアルを実施し、取扱商品数の大幅増加や、自社ストアでのレンタルサービスを開始いたしました。その結果、売上高は前年同期比 47.8%増の 249 百万円となりました。一方、新規事業への先行投資や設備投資を行ったこと、新規店舗のオープンコストの発生等により、営業損失は 62 百万円（前年同期は営業損失 61 百万円）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高については前年同期比 6.2%増の 6,569 百万円となりました。利益面については、営業利益は 13 百万円（前年同期は営業損失 29 百万円）、経常利益は 22 百万円（同 経常損失 12 百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 7 百万円（同 親会社株主に帰属する四半期純損失 47 百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて 1.7%減少し、8,988 百万円となりました。これは、売掛金が 172 百万円、商品及び製品が 128 百万円それぞれ増加したこと、また、自己株式の取得及び短期借入金の一部返済を行ったことを主要因として現金及び預金が 457 百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて 0.9%減少し、2,685 百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて 1.5%減少し、11,673 百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて 0.1%増加し、6,637 百万円となりました。これは、前受金が 212 百万円、契約負債が 77 百万円それぞれ増加し、預り金が 234 百万円、短期借入金が 100 百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて 1.8%増加し、448 百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて0.2%増加し、7,086百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4.2%減少し、4,587百万円となりました。これは、主に配当金の支払い71百万円及び自己株式の取得145百万円による純資産の減少があったことによるものであります。なお、第1四半期連結会計期間において、資本金の減資及び自己株式の消却を行っております。この結果、資本金、資本剰余金及び自己株式については前連結会計年度末と比較して大きく減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2022年5月10日に公表いたしました業績予想から現時点では変更はありません。修正が必要となった場合には速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,969,107	3,512,038
売掛金	2,878,891	3,051,502
商品及び製品	1,576,296	1,704,452
原材料及び貯蔵品	20,237	44,801
その他	701,805	675,430
流動資産合計	9,146,337	8,988,225
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	233,383	254,842
有形固定資産合計	233,383	254,842
無形固定資産	74,222	71,815
投資その他の資産		
差入保証金	1,655,200	1,605,250
敷金及び保証金	695,883	700,277
その他	52,133	53,219
投資その他の資産合計	2,403,216	2,358,747
固定資産合計	2,710,822	2,685,406
資産合計	11,857,160	11,673,631

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	222,985	282,045
短期借入金	1,400,000	1,300,000
リース債務	8,138	18,665
未払法人税等	28,467	9,729
前受金	818,715	1,031,603
預り金	2,881,505	2,647,182
賞与引当金	74,000	102,810
前受収益	496,111	474,284
資産除去債務	3,775	12,800
契約負債	279,540	356,756
その他	414,899	401,421
流動負債合計	6,628,138	6,637,298
固定負債		
リース債務	18,011	38,684
繰延税金負債	1,621	—
株式給付引当金	4,995	4,995
資産除去債務	416,385	405,140
固定負債合計	441,013	448,819
負債合計	7,069,152	7,086,118
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,215,949	100,000
資本剰余金	1,404,538	464,292
利益剰余金	5,195,404	4,788,512
自己株式	△3,027,884	△765,291
株主資本合計	4,788,007	4,587,513
純資産合計	4,788,007	4,587,513
負債純資産合計	11,857,160	11,673,631

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	6,186,103	6,569,352
売上原価	2,311,087	2,416,193
売上総利益	3,875,015	4,153,159
販売費及び一般管理費	3,904,028	4,139,323
営業利益又は営業損失(△)	△29,012	13,836
営業外収益		
受取利息	99	51
助成金収入	23,144	—
受取保険金	4,300	—
補償金収入	—	19,197
雑収入	6,105	5,860
営業外収益合計	33,649	25,109
営業外費用		
支払利息	9,865	12,622
支払手数料	6,000	2,681
雑損失	1,660	1,421
営業外費用合計	17,525	16,725
経常利益又は経常損失(△)	△12,889	22,219
特別利益		
投資有価証券売却益	600	—
特別利益合計	600	—
特別損失		
和解金	2,500	3,000
固定資産除却損	0	1,457
減損損失	3,637	1,368
特別損失合計	6,137	5,825
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△18,426	16,393
法人税、住民税及び事業税	35,364	15,535
法人税等調整額	△5,897	△6,410
法人税等合計	29,466	9,124
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△47,893	7,268
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△47,893	7,268

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△47,893	7,268
四半期包括利益	△47,893	7,268
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△47,893	7,268
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年6月24日開催の定時株主総会の決議に基づき、2022年6月24日付で資本金1,115,949千円を減少し、その全額をその他資本剰余金へ振り替える処理を行いました。

また、2022年5月10日開催の取締役会決議に基づき、自己株式670,000株の取得を行い、同取締役会決議に基づき、2022年6月30日付で自己株式3,000,000株の消却を実施いたしました。

さらに、2022年7月15日付の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として自己株式40,800株の処分を行いました。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が100,000千円、資本剰余金が464,292千円、自己株式が765,291千円となっております。

(セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	和装店舗運営事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,017,278	168,824	6,186,103	—	6,186,103
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,017,278	168,824	6,186,103	—	6,186,103
セグメント利益 又は損失(△)	433,322	△61,184	372,138	△401,151	△29,012

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△401,151千円は本社管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「和装店舗運営事業」セグメントにおいて、資産の用途変更に伴い回収可能価額を見直した結果生じた減少額3,637千円を減損損失として特別損失に計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	和装店舗運営事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,319,811	249,541	6,569,352	—	6,569,352
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,319,811	249,541	6,569,352	—	6,569,352
セグメント利益 又は損失(△)	478,680	△62,883	415,797	△401,961	13,836

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△401,961千円は本社管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「和装店舗運営事業」セグメントにおいて、資産の用途変更に伴い回収可能価額を見直した結果生じた減少額

1,368千円を減損損失として特別損失に計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。